

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あかぐみ蔵敷		
○保護者評価実施期間	令和 7 年 5 月 1 日		～ 令和 7 年 5 月 31 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 2名
○従業者評価実施期間	令和 7 年 6 月 1 日		～ 令和 7 年 7 月 15 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 7 月 31 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	季節感のある活動を提供している	お正月遊びやお花見、プールでの水遊びなど、季節を感じられる活動や体験をしている。また、事業所内でのイベント開催や季節に合わせた制作を実施している。 (イベント: 夏祭り・ハロウィンなど) (制作・体験: 書初め・母の日・七夕など)	季節やイベントに応じた音楽を流し、さらに四季を感じられるようにする。現在は季節ごとなので、月ごとにイベントや季節感のある活動が出来るようにし、ご利用者様に様々な体験をしてもらえるようにする。
2	チームワークで安心安全な支援を行っている	送迎車乗降の際に動作一つ一つに対してスタッフ同士で声掛けや目視などの確認作業を行い、安全面に配慮している。移動と移乗は二人介助で実施し、利用者様にもスタッフにも安全安心であるよう工夫している。 持ち物や内服薬など、スタッフ同士でダブルチェックして確実に安心安全な支援を意識している。	スタッフ同士での声掛けを活発に行い、安全に配慮した支援を継続していく。スタッフの中で支援の役割が固定されないようにスタッフ同士で指導し合い、全スタッフの支援技術の向上を図れるようにする。
3	利用者様に関する適切な情報を共有している	全てのスタッフが利用者様の状況に応じて適切な支援を行えるよう些細な事柄も共有し、活発な意見交換をしている。また、意見交換の時間も積極的に設けている。	意見交換の場が限定的にならないよう、全スタッフに周知できるように日誌や口頭で共有する。また、日々の支援の中でスタッフ同士で気軽に意見を言い合える雰囲気づくりに努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域住民との関わりが少ない	過去に近くの農園でブルーベリー狩りをしたことがあり地域住民とのかかわりもあったが、現在はスタッフの人数や支援内容等の関係で機会を設けることが難しい。 車椅子での移動になるので、天候に左右されやすい。	散歩に出かけた際には、出会った人に挨拶するように心がけ、地域住民に認知してもらおうきっかけを作る。お出かけする組とお留守番組にグループ分けし、地域や社会に参加できる機会を増やす。天候が不安定な時は、屋内の公共施設や商業施設へのお出かけにする。
2	事業所の行事に地域住民を招待することができていない	過去に事業所の行事として地域住民も対象にしたバザーを開催したが、来所していただけなかった。チラシを近隣住民に配布していたが、バザーを屋内で開催していたので関わりがない地域住民には足を運びずらかったのではないかと考える。	令和7年度は東大和市の福祉祭りに参加し、バザーを出店する予定である。この参加により、事業所や利用者様のことを地域の方に知っていただけるのではないかと考えている。
3	地域イベントへの参加ができていない	地域イベントに参加することを視野に入れておらず、情報収集ができていなかった。	公民館や図書館などの公共施設に行き、チラシなどで情報収集をする。また、インターネットで長期休暇を利用して参加できるイベントを調べ、事前に計画を立てて参加できるようにする。